



感染症に気をつけよう



1. 全数報告感染症(感染症法1～5類感染症):3月の報告

[腸管出血性大腸菌感染症](#)の報告が3件ありました。いずれも詳細については調査中です。

マラリアの報告が2件ありました。2件とも、海外(アフリカ大陸内)での感染と推測されています。

その他、[風しん](#)の報告が2件、[A型肝炎](#)・[アメーバ赤痢](#)・[後天性免疫不全症候群](#)(HIV感染症を含む)および[バンコマイシン耐性腸球菌感染症](#)の報告が1件ずつありました。

定点報告感染症(感染症法における5類感染症)

平成 24 年 2 月 20 日～平成 24 年 3 月 25 日

疾患名	市内流行状況	コメント
インフルエンザ		1月末～2月初めに流行のピークを迎えて以降、患者数は減少しています。なお現在、市内で報告されるインフルエンザの約9割がB型です。
感染性胃腸炎		市内全体としては落ち着いてきていますが、一部地域では流行が継続しています。
伝染性紅斑 (りんご病)		一部地域で流行の兆しが見られています。市内では例年、春から夏にかけて流行する感染症ですので、今後の動きに注意が必要です。



2. 今気をつけたい感染症

[マイコプラズマ肺炎](#): 小児など、若い世代に見られる肺炎です。まず発熱や頭痛を伴う気分不快感が数日続き、その間に咳がひどくなってきます。症状はかなり長引き、特に頑固な咳が続く特徴があります。一般的には予後良好ですが、重症化することもあり注意が必要です。主に秋に流行する感染症ですが、日本では昨年秋以降、全国的に流行が続いています。ワクチンが存在しないため、予防には手洗い・うがい重要です。咳が長引くなどの症状が見られる場合は、早めにかかりつけの医師に相談しましょう。

「感染症に気をつけよう4月号」は、平成24年3月29日の横浜市感染症発生動向調査委員会の内容を市民向けに加工したものです。詳しくは、[委員会報告](#)をご覧ください。

市内感染症に関する詳しい情報は、[感染症発生状況](#)をご参照ください。

また、衛生研究所では、一般の方用の[パンフレット](#)の作成もしていますので、併せてご利用ください。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課(横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

